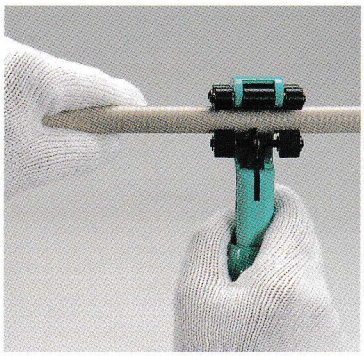
継手接続要領

継手についてのご注意

●継手はフレキ管の原管外周面シール構造となっています。
●継手は、投げたり、落下させたりしないでください。

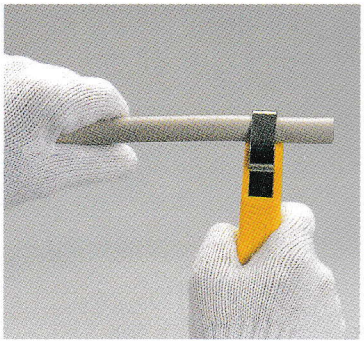
⚠ 警告
●継手を誤って落下させた時は、各部品に損傷、異物の混入がないか確認してください。不具合発生の状態で施工すると、気密不良の原因となります。
●継手の再使用は禁止です。気密不良の原因となります。

1 フレキ管の切断

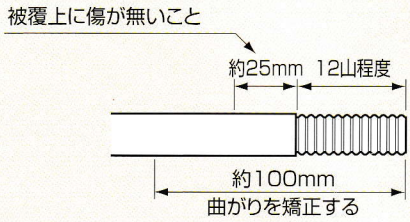


フレキ管を適当な長さにステンレス鋼専用のフレキカッターを用いて切断します。

2 被覆の剥離



専用の被覆カッターを使用して、12山程度
(目安)
8~20A：約50mm
25A　：約70mm
フレキ管の先端の被覆を剥離します。

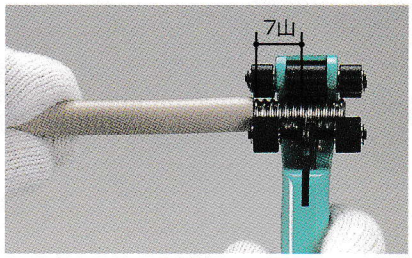


⚠ 注意
剥ぎ取り前にフレキ管先端から約100mm部分の曲がりを矯正してください。曲がっていると切断不良や挿入不良の原因となります。

⚠ 注意
被覆の剥ぎ取りには、専用の被覆カッターを使用してください。他の工具の使用はフレキ管に損傷を与え、施工不良や気密不良の原因となります。

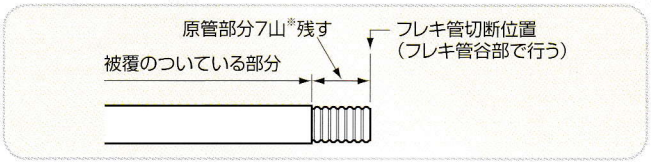
⚠ 注意
剥ぎ取り部から約25mm以内の被覆上に傷がないことや被覆が浮いていないかを確認してください。傷があると水密性が損なわれる可能性があります。また、フレキ管の山部と被覆の内面は通常密着していますが、被覆が浮いていると挿入不良の原因となりますので、フレキ管を切り直してください。

3 原管の切断

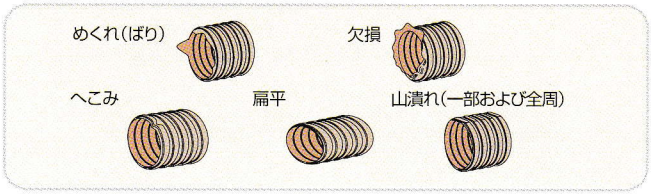


フレキカッターで原管を7山※残して谷部を切断します。

※山数は従来品(ワンプッシュ®継手)と同じです。
6山も施工可能です。



⚠ 警告
フレキ管谷部の一部が切れずに残った場合には、慎重に繰返し折るようにして切り離してください。フレキカッターは、切断時にフレキ管とフレキカッター本体が接触して損傷を与えないものを使用し、切断後は、切断面およびフレキ管先端から5山間に下図のようなめくれ(ばり)、欠損、へこみ、扁平、山潰れ等の原管の変形や傷付きがないことを確認してください。切断面が悪い場合は、挿入不良および気密性能が保持できないため、切り直してください。



⚠ 注意
剥ぎ取り部から25mm以内の被覆が浮いていないことを確認してください。被覆が浮いていると挿入不良の原因となりますので、フレキ管を切り直してください。

4 継手接続(ねじ付の場合)

継手をヘッダー、ガス栓等にねじ込んで接続する。

! 強制
他の部品と接続する管用テーパねじ部にはシール剤を使用してください。使用しない場合は、気密不良の原因となります。

⚠ 警告
接続は継手本体の六角部にスパナまたはフレキ管継手レンチ等を使用して締付けてください。パイプレンチは使用しないでください。またモンキレンチまたはモーターレンチを使用する場合は、継手六角部とレンチ開口幅にガタツキがなく隙間がなくなるように調整してください。ガタツキがあると継手本体が変形しフレキ管が接続できない恐れがあります。

⚠ 注意
フレキ管を継手に挿入後に継手をねじ込む場合は、以下の事項を遵守ください。「フレキ管が真直ぐの状態であること」「フレキ管に引張りや曲げの力がかかっていないこと」「継手のねじ込み以上に回さないこと」。